

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)
／金 貞均

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

科学研究費補助金の獲得のため研究課題の洗練化をはかるとともに、独創的で先駆的な研究計画書の作成を工夫した結果、「学術研究助成基金助成金」を獲得した(研究期間:平成23年度～25年度、研究課題:日本の近代住宅が韓国の伝統住宅の変容に及ぼした影響)。今年度は2年目の研究計画を順調に進め研究成果を上げ、次の新しい研究課題に発展させていきたい。

2. 点検・評価

科学研究費補助金の獲得のため研究課題の洗練化をはかり、独創的で先駆的な研究計画書の作成を工夫した結果、学術研究助成基金助成金」を獲得した(研究期間:平成23年度～25年度、研究課題:日本の近代住宅が韓国の伝統住宅の変容に及ぼした影響)。今年度は2年目の研究計画として次の研究調査を実施し、順調に研究を進めた。
調査①6月13日～20日、韓国全羅南道地域において、研究対象韓屋の資料収集と現地調査等を実施。
調査②11月7日～14日、韓国慶尚南道地域において、研究対象韓屋の資料収集と現地調査等を実施。
上記の二つの調査結果をもとに地方韓屋の近代化の実態を明らかにするとともに、最終年度の研究課題の具体化と準備を進めた。
本研究課題の成果を次の新しい研究に発展させていけるように最終年度の研究を進めていきたい。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

大学院の定員充足のためコースの教員全員で努力してきたが、現場の家庭科教員の減少と卒業生の高い教員就職率で、両方からの院生確保がむずかしい状況である。新たな依頼先の開拓が求められており、平成24年度は個人的に次の方策を立て取り組んでいきたい。

- ①本コースの住居ゼミOBの現職教員に募集要項を配布し、受験を勧誘する。
- ②住居分野の知人・友人のいる大学へパンフレットの送付や大学訪問等を積極的に行う。
- ③住居分野の研修会や研究会及び学会活動等を通じて本コースの広報に務める。
- ④韓国の協定大学や交流大学の学生らに大学院の入試情報を発信し、留学生受け入れに努める。

2. 点検・評価

- ①5月15日、コースの教員らと協力して徳島県内の現職教員と卒業生および住居ゼミOBの現職教員に募集要項を発送し、受験を勧誘した。
- ②住居分野の知人・友人のいる大学へパンフレットの送付(相山女学園大学、九州女子大学、同志社女子大学等6カ所)や大学訪問等を行った(徳島文理大学)。
- ③住居分野の研修会や研究会(12月15日、四国住教育研究会)及び学会活動(11月7日、日本家政学会中国・四国支部大会)等を通じて本コースの広報に務めた。
- ④9月17日、韓国京仁教育大学校と附属初等学校の訪問及び生活科学教育科教員らとの懇談会の際に本学大学院案内と募集要項を渡し、留学生受け入れに努めた。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

1. キャリア教育の実施、オフィスアワーの積極的な活用により学生の教育活動を支援する。
2. 学生の進路や悩み等の相談に随時応じ、大学生活を支援する。
3. 授業やゼミを通して教員採用試験の対策指導(専門と小論文、面接等)を行う。
4. 本学の留学生らへの教育・生活相談に随時応じ、留学生生活を支援する。

2. 点検・評価

1. 1年次の「初等中等教育実践基礎演習(家庭)」の授業を通してキャリア教育を実施した。なお、オフィスアワーを活用して授業課題の指導や相談をおこない、学生の教育活動を支援した。
2. 学生の進路や悩み等の相談に随時応じ、大学生活を支援した。
3. 教員採用試験の対策を意識した指導(専門の授業におけるプレゼンテーション・討論の実施、小論文の指導や面接等)を行った。
4. 本学の留学生らへの教育・生活相談に応じ、留学生生活を支援した(2名)。

II-2. 研究

1. 目標・計画

1. 学術研究助成基金助成金による研究課題の本年度研究計画分の調査研究を進める(韓国南部地方の韓屋調査及び分析)。
2. 研究成果をまとめ関係学会誌等に投稿する。
3. 「四国住教育研究会」における住教育実践研究活動(現職教員向け研修会の実施、研究会報告集の発行等)を行う。

2. 点検・評価

1. 学術研究助成基金助成金による研究課題の本年度研究計画分の調査研究を順調に進めた(韓国南部地方の韓屋調査及び分析)。
2. 研究成果をまとめ韓国住居学会誌に投稿し、採択・掲載された(A Study on the Plan Type of the Urban LDK House in Japan -By the Combination of Plan Composition Elements-, Journal of the Korean Housing Association, Vol. 24, No. 1, 41-49, 2013.2)。
3. 「四国住教育研究会」における住教育実践研究活動として現職教員向け研修会を高知で開催し、実技研修を行った(12月15日、第6回四国住まい・まち・環境教育研修会における実技研修「実習:耐震・家具転倒防止について考える」)。なお、3月研究会報告集を発行した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

1. 本コース及び自然・生活系教育部において構成員としての役割を果たし、コースと部会の運営に貢献する。
2. 学部入試委員会委員、国際交流委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

1. 本コース及び自然・生活系教育部の構成員としての役割を果たし、コースと部会の運営に貢献した。
2. 学部入試委員会委員、国際交流委員会委員、「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」におけるカリキュラムマップ・ガイドライン研究協議会委員として、本学の運営に貢献した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

1. 附属学校の授業研究・教育実習等に積極的に参加し、教科の教育研究活動を支援する。
2. 社会との連携を図るため、自治体の各種審議会において地域社会に必要な専門的な提言を行う。
3. 韓国の研究者と共同で韓国の住宅調査を行う。
4. 韓国の協定大学や交流大学の教員との教育・研究交流を進める。

2. 点検・評価

1. 6月1日附属中学校の研究発表会や9月の附属小・中学校における教育実習の授業研究・評価授業等に参加し、教科の教育研究活動を支援した。
2. 社会との連携を図るため、徳島県総合計画審議会、徳島市住生活基本計画検討委員会等自治体の審議会において地域社会に必要な専門的な提言を行った。特に徳島市住生活基本計画検討委員会において「徳島市住生活基本計画(平成24年度～平成33年度)」の策定に寄与した。なお、産業技術総合研究所四国センターと四国6大学との連携・協力の推進に基づく研究プラットフォーム事業の一環である「四国・住みたいまちに生きる」WG検討会メンバーとして検討会に参加し提言を行った。
3. 韓国の研究者と共同で韓国の住宅調査を実施した(科研調査の一環)。
4. 9月17日、韓国京仁教育大学校生活科学教育科教員との懇談会を主宰し、教育研究交流を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

1. 9月15日～18日までの韓国出張(本コースから5名の教員参加)における教育研究交流(韓国の教育・文化施設の見学と京仁教育大学校総長表敬訪問、生活科学教育科との懇談会、附属小学校の施設見学及び授業参観等)を主宰し、協定大学との国際交流に貢献した。
2. 10月15日、第5回日韓教育大学学長懇談会、10月16日韓国京仁教育大学校総長一行の本学訪問行事、11月2日～4日第7回東アジア教員養成国際シンポジウムへ出席し、本学の国際交流事業に貢献した。